

歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書の概要について

(12年8月、16年3月、19年12月)

	改善すべき事項	今後の課題等
平成12年8月	<p><u>○プール制への将来的な移行と当面の措置</u></p> <p>①試験問題の回収 ②ブラッシュアッププロセスの新設 ③試験結果の本人への通知</p> <p><u>○平成14年試験から改善すべき事項</u></p> <p>①必修問題の導入 →30題程度出題することとし、将来的には出題数を増加</p> <p>②禁忌肢の導入</p> <p>③試験問題数の増加</p> <p>④合否基準 ・必修問題 →絶対基準の評価で最低合格レベルを80%とすべき ・禁忌肢 →複数選択した場合不合格にすべき</p>	<p>○実技試験について</p> <p>○試験問題の公募制及び施行問題の導入</p> <p>○ブループリントの作成</p>
平成16年3月	<p><u>○プール制への移行</u></p> <p>→試験問題を収集・蓄積する体勢を強化しつつ、引き続き継続してプール制の移行を目指すべき (試験問題及び視覚素材の公募、プール問題作成委員会によるブラッシュアッププロセス、試験問題の回収、試験結果の通知)</p> <p><u>○平成18年試験からの改善事項</u></p> <p>①ブループリント（各領域に応じた出題割合）の明示</p> <p>①出題数・出題内容 →出題数は330題から365題に、必修問題は30題から50題に</p> <p>②出題形式 →必修問題はAtypeのみとし、一般問題でもXtypeを出題すべき</p> <p>③問題の選択肢数の見直し →Atypeでは4肢あるいは6肢で出題できるようにすべき</p>	<p>○受験回数制限</p> <p>○施行問題の導入</p> <p>○予備試験の試験科目等</p>

	<p>○試験の早期化 →国家試験の合格者が円滑に研修を実施できる体制を整備するため国家試験の早期化ができるよう努めるべき</p> <p>○合否基準、技術能力評価試験について →「※歯科医師資質向上検討会」「歯科医師国家試験の技術能力評価等に関する検討会」の報告を踏まえ、実現できる体勢を整備すべき</p>	
平成19年12月	<p>○プール制の更なる推進</p> <p>○平成22年からの改善事項</p> <p>①ブループリントの詳細化（臨床で経験する頻度による高低を考慮）</p> <p>②出題基準 →近接・重複している項目を包括し、出題基準の小項目を最小限に整理</p> <p>③基礎領域の臨床との関連性を踏まえた出題方法の検討</p> <p>④社会的課題への対応</p> <p>⑤出題数・出題内容 →出題数は365題を維持。必修問題は50題から70題に</p> <p>⑥出題形式 →5肢択一・択二にとらわれないXXtypeや計算問題、LAtypeを出題すべき</p> <p>⑦一般問題と臨床実地問題の評価方法 →相対基準を採用。臨床実地問題の配点に重みを置く</p> <p>⑧禁忌肢については引き続き合格基準として運用するが、偶発的な要素で不合格とならないよう配慮すべき</p> <p>○合格基準 →新卒者と既卒者の成績が大きく異なっていることを考慮すべき</p>	<p>○技術能力の評価</p> <p>○試験の評価方法の検討</p> <p>○多数回受験者の対応</p> <p>○外国語によるコミュニケーション能力を考慮した試験のあり方の検討</p>